

2024年3月12日時点



2023年 海と日本 PROJECT サポートプログラム



事業終了報告書

海と日本プロジェクト in 浜名湖 実行委員会

1. 事業目的

「海と日本プロジェクト in 浜名湖」実行委員会は、日本財団「海と日本プロジェクト」が推進する5つのアクション（海を学ぼう、海をキレイにしよう、海を味わおう、海を体験しよう、海を表現しよう）と、以下をコンセプトに2016年度から定期的に事業を実施。

- (1) 広く一般に対し、海（浜名湖）の大切さや重要性を効果的に認識させる
- (2) 日本の祝日「海の日」の周知、啓発に繋げる
- (3) 次世代を担う子供たちの海（浜名湖）に対する好奇心を喚起する
- (4) 本事業に参加や協力してくれた方が“次ぎの繋がり”や“アクション”を起こす担い手になってもらう

また、アフターコロナ・ウィズコロナの中でも多くの人々が安心して事業に参加できるよう、新たな視点も加え、さらに事業期間を延ばし複数のプログラムを繋ぎながら本事業及び日本財団「海と日本プロジェクト」の成果を生み出せるよう取り組む。

2. 事業概要

- (1) タイトル：～海と日本プロジェクト in 浜名湖～ 見て 知って 感じて はまなこ show2023
- (2) 実施期間：2023年6月～2024年3月
- (3) 主催：海と日本プロジェクト in 浜名湖実行委員会
- (4) 後援：浜松市、湖西市、浜松市教育委員会、湖西市教育委員会、テレビ静岡
- (5) 協力：プログラム毎の各関係団体
- (6) 参加者数：9,613人 ※目標 6,000人以上

3. 事業実施体制

① 実行委員会

| | 氏名 | 所属団体 役職 |
|--------|------|----------------------------|
| 実行委員長 | 山内 貴 | 浜名湖競艇企業団宣伝課 課長 |
| 副実行委員長 | 中野貴裕 | 日本モーターボート競走会浜名湖支部 管理課 課長 |
| 実行委員 | 渥美博之 | 新居町商工会 事務局長 |
| 〃 | 白井保司 | 湖西市文化観光課 課長 |
| 〃 | 松下直樹 | 浜松市産業振興課 課長 |
| 〃 | 伊藤典明 | (公財)浜松・浜名湖ツーリズム・ビューロー 事業部長 |
| 〃 | 長田尚史 | 湖西・新居観光協会 事務局長 |

② 事務局

| | 氏名 | 所属団体 役職 |
|------|-------|-------------------|
| 事務局長 | 白井幸倫 | 浜名湖競艇企業団 宣伝課 課長補佐 |
| 事務局員 | 北野勝也 | 〃 副主幹 |
| 〃 | 坂井俊太 | 〃 主査 |
| 〃 | 宮崎禎之 | 〃 主査 |
| 〃 | 鈴木靖将 | 〃 主査 |
| 〃 | 田中麻紀子 | 〃 主任 |
| 〃 | 柴田一輝 | 〃 主事補 |

4. 実施プログラム

「市民協働」、「地域協働」、「海や浜名湖を楽しむ」という視点に、海と日本プロジェクトの5つのアクション（海を、学ぼう・キレイにしよう・体験しよう・味わおう・表現しよう）にそれぞれピックアップをあてたプログラムを実施。

① 浜名湖の伝統漁体験「地引網漁体験」、「海苔摘み体験」

古くから漁場としても豊富な漁業資源を誇る浜名湖。その豊富な漁業資源の感じられる伝統漁として「地引網漁体験」。また、浜名湖のり（はまなこのり）は、浜名湖で1820年頃から続く養殖海苔であり、現存する日本最古の海苔養殖場である浜名湖で「海苔つみ海苔すき体験」を実施した。

地引網漁体験「湖西市会場」

ア 実施日時 7月22日（土）8時30分～13時

イ 実施場所 白須賀海岸

ウ 参加人数 40名

エ 内容 ・豊富な漁業資源を誇る遠州灘の伝統漁「地引網漁」の体験を実施
・地引網漁体験の後、魚捌きや調理&試食体験を実施し、獲った魚は参加者へ配布

オ 実施状況



カ 参加者の声

【子ども】

- ▶ 太平洋にこんなにクラゲがいるのがビックリして面白かった。
- ▶ 江戸時代から地引網が始まっているのがスゴイ。
- ▶ 網に掛かった沢山の生き物を見て、海には沢山の生き物がいることが分かった。
- ▶ 魚の捌き方も知れたし、捌く体験も楽しかった。

【保護者】

- ▶ 今回のイベントに参加する前は、仕掛けた網を、綱引きのようにずっと力いっぱい引っ張り続けるのかと思っていたのですが、体験を通して前方から後方まで歩いて引っ張り、また前方に戻るということを繰り返して引き上げていくのだと知ることができ、とても有意義な時間を過ごせました。

- 住んでいる場所で、どんな魚が採れるのかを知った。
- 昔はもっと沢山魚が採れたが、魚を通して現在は減ってきていることを実感した。
- 子どもがこうして魚を採っていることが体験できて良かった。

キ 協力者 白須賀地引網保存会、NPO 浜名湖フォーラム

地引網漁体験「浜松市会場」

ア 実施日時 9月9日（土）9時30分～12時

イ 実施場所 かんざんじサンビーチ

ウ 参加人数 35名

エ 内容

- ・豊富な漁業資源を誇る浜名湖の伝統漁「地引網漁」の体験を実施
- ・地引網漁体験の後、漁師のガイドによる舟めぐり体験も実施
- ・希望者には、獲った魚を地元飲食店協力で持ち帰り用に処理を行った

オ 実施状況



カ 参加者の声

【子ども】

- 海には興味がなかったけど、興味を持てた。
- 地引網を引くのが、すごく重かったが、船に乗れて楽しかった。
- 船に乗ったり、お魚に触れ合えたりする事が楽しかったです。

【保護者】

- 海も山も人間が守っていかなければいけない事をとても感じています。
- 浜名湖の楽しさ、多様性を見直すきっかけとなった。
- いろんな魚が採れること、700人もの漁師さんが生計を立てられるくらい魚の種類が多いことを知った。

キ 協力者 (株)Hamanako Destination、NPO 法人浜名湖観光地域づくり協議会

地引網漁体験「海苔摘み体験」

- ア 実施日時 令和6年2月10日（土）13時～16時
- イ 実施場所 海の家南海荘浜松市西区村櫛町 および浜名湖水面
- ウ 参加人数 33名
- エ 内容 ・豊富な漁業資源を誇る浜名湖の伝統漁「海苔摘み」の体験を実施
・乗船し養殖場見学、海苔摘み、海苔すきを体験し、最後に試食も体験
- オ 実施状況



カ 参加者の声

【子ども】

- 海苔を摘むのが楽しかった。
- 海苔が最近出来にくくなることを知ってビックリした。
- もっと海苔が増えるようになってほしい。
- 楽しかった、海苔の収穫と海苔スープ。
- 今の海苔は人の手をかけないと出来ないと初めて知った。

【保護者】

- 海の怖さ、波の怖さ、自然のことを学んだ。
- 身近な海、浜名湖の漁業について学べた。
- 初めて浜名湖に入った。
- 子供の生まれた浜松の環境を知れて良かった。

キ 協力者 NPO 浜名湖フォーラム、NPO はまなこ里海の会、浜名湖村櫛遊漁組合

② 浜名湖一周海洋ゴミ拾いラリー（浜名湖周辺6箇所）

多様な楽しみ方がある浜名湖（遠州灘）が、これからも多くの人を訪れる場所として魅力と景観を維持できるよう海洋ゴミ拾いを行い、本プログラム参加者だけでなく、この地域に住む人・訪れる人も巻き込みながら美しい浜名湖を守っていく活動として海洋ゴミ拾い活動を実施。

今回は、従来の海洋ゴミ拾い活動の発展形として「周遊性」の要素を加えるため6箇所の会場で行い浜名湖を1周。

各会場で、通常のゴミ拾い活動に異なった+α企画を付加し参加動機と会場毎の特色を出し各地域の魅力も提供。

新居弁天海水浴場周辺

ア 実施日時 7月7日(月・祝)9時~11時

イ 実施場所 新居弁天海水浴場周辺

ウ 参加人数 36名

エ 内容 ・毎月定期的に活動している団体と連携し、海水浴場付近の漂着ゴミ拾いを実施
・団体から海洋ゴミに関する説明も行い参加者に海洋ゴミの実情や影響を周知

オ 実施状況



カ 参加者の声

【子ども】

- 私はいつもゴミを捨てません。他の人にもゴミを捨てないようにしてほしい。
- 人が色々なゴミを川などに捨てているから、一人一人が気を付けないと魚が間違えて食べちゃって、また人がその魚を食べることになるから、どっちも困る。一人一人が気を付けないと、と思いました。
- 海のことをもっと知ることが出来た。
- ゴミ拾い体験は楽しかったです。

【保護者】

- 生活で出すゴミを見直したいです。
- 今日参加したゴミ拾いは海をキレイにするためのほんの一部で、沢山の活動をしてくださっていることを知り、もっといろんな活動に参加したいと思いました。
- マイクロプラスチックが非常に多いと思いました。これを海の生き物が食べてしまう事態を避けたいが、拾うのも大変でした。
- ゴミが大きいうちに拾う。そもそも捨てないなど考えたいと思いました。

キ 協力者 NPO 法人 DIGtag、湖西・新居観光協会

三ヶ日町大崎海岸

- ア 実施日時 9月23日（土・祝）7時30分～9時
- イ 実施場所 三ヶ日町大崎海岸
- ウ 参加人数 41名
- エ 内容 ・毎月定期的に活動している団体と連携し、海岸付近の漂着ゴミを拾った
・この地域に住む人や自然を守るために行う海洋ゴミ拾い活動の重要性を伝えた

オ 実施状況



カ 参加者の声

【子ども】

- 世界一最高に楽しかった。
- 海が大事だと思いました。
- ガラスが多かった。
- 以前参加して、とても勉強になり楽しかったので参加しました。

【保護者】

- 捨てなければ拾う事もないという言葉がとても印象的でした。
- 海のこと、ゴミのことを身近に感じることで子供たちが考える機会になればいいと思います。
- 人とつながることを学んだ。
- 食べ物のゴミや衣類、タバコの吸い殻が大量に捨てられていて、環境に悪影響を及ぼしている事を学んだ。

キ 協力者 T-flow.Water Side Community、BLUE LAKE Project

弁天島いかり瀬

- ア. 実施日時 10月14日（土）9時～11時
- イ. 実施場所 弁天島いかり瀬
- ウ. 参加人数 42名
- エ. 内容 ・毎月定期的に活動している団体と連携し、海岸付近の漂着ゴミを拾った
・海の小さな生き物たちのゆりかごとと言われる「アマモ場」の観察も行った

オ. 実施状況



カ. 参加者の声

【子ども】

- ▶ ゴミが沢山あって、捨てるのは簡単だけど拾うのは大変だと思った。
- ▶ 盛り上がり過ぎてデカイゴミを取って楽しかった。
- ▶ 船に乗って楽しかった。アマモの説明を受けられて良かった。

【保護者（大人）】

- ▶ ゴミはどこにもあると感じた。
- ▶ 地元の自治体だけでなく、一般の団体も浜名湖美化活動をやっていることに驚きました。
- ▶ プラスチックは、すごく小さくてもずっと残ってしまうことがよく分かりました。息子が積極的に参加できて良かったです。

キ. 協力者 浜松リバティライオンズクラブ

浜名湖ガーデンパーク周辺

ア. 実施日時 10月28日（土）9時～11時

イ. 実施場所 浜名湖ガーデンパーク周辺

ウ. 参加人数 22名

エ. 内容 ・ゴミ拾いとジョギングを合わせたスウェーデン発 New フィットネスである「プロギング」としてゴミ拾い活動を実施

オ. 実施状況





カ. 参加者の声

【子ども】

- ▶ プロギングの代表やリーダーの方が楽しくて良かったです。
- ▶ ペットボトルの山もあった。まだまだ大量のゴミを取りたいです。
- ▶ 楽しかった。

【保護者（大人）】

- ▶ 1人1人が環境を大切にしていこうと考えながら行動し続けることを学んだ。
- ▶ ゴミの量や環境を学びました。
- ▶ プロギングチームの方が素敵で楽しかったです。
- ▶ 思った以上にゴミが沢山あった。

キ. 協力者 NPO 法人浜名湖フォーラム、プロギング浜松

白須賀海岸

ア. 実施日時 11月11日（土）15時～17時

イ. 実施場所 白須賀海岸

ウ. 参加人数 31名

エ. 内容 ・毎月定期的に活動している団体と連携し、海岸付近の漂着ゴミを拾った
・水平線に沈む夕陽をみながら、団体から淹れたてコーヒーなどを参加者に振舞った。

オ. 実施状況



カ. 参加者の声

▶ ※諸事情によりアンケート未実施

キ. 協力者 NPO 法人 DIG tag、湖西市・新居観光協会

細江町都田川河川敷

ア. 実施日時 11月18日(土)

イ. 実施場所 細江町都田川河川敷

ウ. 参加人数 26名

エ. 内容 ・浜名湖観光圏の観光事業を推進する協議会のワーキンググループ及び企業等(静岡銀行など)と連携した海洋ゴミ拾い活動を合同実施

オ. 実施状況



カ. 参加者の声

【子ども】

▶ これからもゴミを捨てないで生きたいです。

【保護者(大人)】

▶ ※回答なし

キ. 協力者 浜名湖観光圏整備推進協議会

③ 浜名湖釣り体験(湖西市篇、浜松市篇)

「海の湖」とも呼ばれる浜名湖の特徴として外海との出入り口がある事で様々な魚がいて、釣り場も充実。他の地域からも多くの方が訪れるほど魅力のある釣りのスポット。その魅力を触れていない(知らない)地元子ども達や、また他の地域子ども達にも触れる機会を作った。

湖西市篇

ア. 実施日時 9月16日(土)

イ. 実施場所 新居弁天海釣公園

ウ. 参加人数 16名

エ. 内容 ・地元観光団体（湖西市・新居観光協会）と連携し初心者対象の釣り教室を実施
・釣り実施後、付近の海水浴場のビーチクリーンも実施

オ. 実施状況



カ. 参加者の声

【子ども】

➤ 楽しかったです。

【保護者（大人）】

➤ 初めての釣りができた。

➤ ゴミを捨てずに持ち帰ろうと思った。

キ. 協力者 湖西市・新居観光協会

浜松市篇

ア. 実施日時 10月21日（土）9時～16時

イ. 実施場所 静岡県立三ヶ日青年の家

ウ. 参加人数 45名

エ. 内容 ・奥浜名湖の湖岸の清掃活動実施後、同じエリアでクロダイの釣り体験を実施
・釣ったクロダイを浜松調理菓子専門学校協力により、調理し試食も行った。

オ. 実施状況





カ. 参加者の声

【子ども】

- ▶ 釣りは楽しい。釣る場所を変えることが大切。

【保護者（大人）】

- ▶ SDGs を考える団体が多いことを感じた。
- ▶ 漁師ではなく釣りにプロがある事を知った。
- ▶ 海の大事さを知った。

キ. 協力者 BLUE LAKE Project とゆかいな仲間たち

(フィッシングプロ「黒田健史」、ポーター「長嶋万記」、浜松調理菓子専門学校)

④ 浜名湖を彩ろう！ぬりえチャレンジ

共通のぬり絵用紙にお気に入りの色彩で浜名湖を彩るぬり絵チャレンジ。専用受付までご持参いただいたお子様には参加賞として「お菓子つめあわせ」をプレゼント。応募作品は活動展にて掲示した。

ア. 募集期間 夏季) 7月15日(土)～8月16日(水)

冬季) 12月22日(金)～令和6年1月28日(日)

イ. 応募数 夏季) 204点・冬季) 164点

ウ. 展示期間 夏季) 8月27日(日)～10月27日(金)

冬季) 令和6年2月7日(水)～3月7日(木)

エ. 展示状況



⑤ エンジョイ！はまなこマリンフェスティバル

安全安心に楽しめるポートレース場の水面を活用し様々なマリンアトラクション等の体験を提供。また不特定多数の人が参加して、海と日本プロジェクトの活動や浜名湖の魅力に触れていただくよう、グルメ販売やワークショップなども実施しイベント的な要素を重視して実施した。

ア. 実施日時 令和5年8月27日（日）10時～16時

イ. 実施場所 ポートレース浜名湖

ウ. 参加人数 2,366名

エ. 内容

- ・SUP、SUP ヨガ、シーカヤックなどの浜名湖で体験できるマリンスポーツ体験
- ・地元で活動するアイドルなどによるステージショー
- ・浜名湖周辺のグルメが味わえるグルメ販売
- ・浜名湖周辺で活動している方によるワークショップは物販 など

オ. 実施状況



カ. 参加者の声

【子ども・中高生】

- ▶ やった事がない体験ができて面白かった。
- ▶ 海の生き物を見たり触ったりできて楽しかった。
- ▶ 知らない事を知れた。
- ▶ 海を大切にしないといけないし、ゴミなどを海に捨ててはいけないと思った。

【保護者（大人）】

- ▶ 海を大切にするという事を学んだ。
- ▶ 海をキレイに保たなければならないと思った。

⑥ 海と日本プロジェクト in 浜名湖活動展

2023 年度事業の当実行委員会の活動を多くの人に知ってもらうため活動報告展を実施。各プログラムの活動記録をまとめた映像や、コンテスト作品等の展示を約 1 ヶ月間実施。不定期で、魚の展示やタッチプール、ワークショップなども行い活動報告展実施会場（ボートレース浜名湖）への誘客企画も実施し、次年度以降の事業参加動機も与えるような PR 機会とした。

ア. 実施日時 令和 6 年 2 月 7 日（水）～3 月 7 日（木）10 時～16 時

※尚、上記期間の中で会場である「ボートレース浜名湖」のレース開催日のみ実施

イ. 実施場所 ボートレース浜名湖

ウ. 参加人数 約 6,500 名

エ. 実施状況



5. 今年度事業の総括

2022 年度事業に引き続き新型コロナウイルス感染症に対する制限や対策なども配慮しながら、これまでの「海と日本プロジェクト in 浜名湖」の事業参加者、協力者に対して継続的参加を呼びかけ、新たな人たちとも繋がりながら以下のビジョンを持ってそれぞれの取り組み成果を上げました。

<単年度（今回）の事業成果>

① 新たな要素も加えた今回の事業に、過去の協力者だけでなく、新たな協力者を加えながら進化した「海と日本プロジェクト in 浜名湖」で事業を作り上げた

↳ 新たな連携団体…浜名湖フォーラム、浜名湖観光地域づくり協議会、はまなこ里海の会、浜名湖村 櫛遊漁組合、浜松リパティライオンズクラブ、プロギング浜松

② 本事業の協力者が、事業実施後も各々発展し、“地域貢献”や“地域と共生”を継続させた

↳ 過去に別々のプログラムを担っていて団体同士が連携して新たなプログラム内容（海洋ごみ拾い、クロダイ釣り、クロダイ調理～試食）に発展させて今回実現させた

③ アフターコロナ、ウィズコロナの中で安心安全を確保しながら事業を遂行させた

↳ コロナ等が原因による急な体調不良で参加者が減るなど影響はあったが、事業全体としては、計画通り各プログラムを実施する事が出来た

④ プログラム参加者の満足度 80%以上、本事業の認知度 100%（参加者アンケートにて調査）

↳ 満足度として「次回も参加したい」…99.2%、認知度として「事業や海への関心が深まった」…100%を得た

⑤ 新たな協力者数の増加（5 団体以上）

↳ ①のとおり、今年度事業として 6 団体と新たに連携